

## 6 関西医大NICUにおける活動状況について

### — 大阪府新生児診療相互システム Neonatal Mutual co-Operation System (NMCS) の一環として —

松村 忠樹 岩瀬 帥子  
(関西医科大学)

#### はじめに

昭和52年度新生児救急医療システムに関する研究において、「大阪府下におけるNICUの地域化について」具体的な方策につき考案し報告した。今回は大阪府における新生児診療相互援助システム(NMCS)参加病院の一つとして、当院小児科の果してきた活動状況を報告するとともに、NMCSが取扱った新生児医療の成果と貢献度について併せて紹介する。

#### I NMCSの活動状況

大阪に在住し、新生児医療にたづさわる献身的な一部の小児科医によって、昭和52年9月より新生児診療相互援助システムが組織された。その後の活動状況について、1年間の集計をもとに成果の一部を要約し紹介しておく。

##### 1. システムの成り立ち

大阪における新生児医療の不備を補うべく次の7病院が中心となってNMCSを発足させた。月一回の例会をもち、次のような目的のため協力を行っている。

##### 参加病院

愛染橋病院小児科  
大阪府立病院小児科

大阪暁明館病院小児科  
関西医科大学病院小児科  
桃山市民病院小児科  
小児保健センター第一内科  
淀川キリスト教病院小児科

##### システムの目的

- 1) 中等度ないし高度の新生児診療を必要とする新生児は産科からの紹介に応じ、全数これを受け入れる為、協力すること。
- 2) 新生児診療施設相互に交流を深め、その診療内容を向上させること。
- 3) 周産期医療の地域診療体制の整備の為、具体的活動を推進すること。

##### 2. システムの利用状況

NMCSが発足して1年余り経過したが、昭和52年9月より昭和53年8月までの1年間に、システム参加病院には730名の新生児が一次入院し、NMCSによる二次入院は177名であった。従来ではこの177名は入院のできない新生児であったがNMCSを通して収容治療されている。

### 1) ブロック別情報 (表1)

NMCSに参加している病院を表中心○印で示した。市内第10ブロックには3病院が集中しており、システム利用の情報が多し。一般にシステム参加病院の存在する地区に情報の交換が多みられている。

### 2) 月間の利用状況 (表2)

月間の平均利用数は75名であり、利用者数も増加の傾向がみられている。

### 3) NMCSに入院した症例の分析 (表3)

一次・二次入院を含めNMCSに入院した症例は907名でその疾患分類は(表3)の如くである。

合併症のない未熟児は31.5%、呼吸器系疾患17.7%、黄疸15.8%の順であるが、外科系疾患、中枢神経系疾患、感染症などに、緊急処置を必要とする症例が多かった。

### 4) 死亡例の分布 (表4)

一次入院において5.75%、二次入院では9.04%の死亡率(平均6.39%)がみられた。合併症を併せて死亡した未熟児は29.3%と多く、次に呼吸障害、血液循環系疾患、中枢神経系疾患であった。

## II 関西医大未熟児センター1年間の活動状況

### 1) 1978年1月～12月末迄の収容状況 (表5)

直接に本院未熟児センター(NICU)に収容された新生児を一次入院と称し、NMCSを通じて入院した例を二次入院と称している。

一次入院は114名、二次入院は23

名で、総計137名を収容し医療を行っているが、これはNMCSで1年内に取り扱った907名の新生児の14%にあっている。当院も未熟児センター(NICU)の増設、増床に伴い、1978年1月より、NICUの機能を十二分に発揮できるようになったが、看護体制の充実には、なお日時を要する状態である。

### 2) 関西医大病院新生児医療システムについて

図1に示すようなシステムにより迅速な情報交換と待機体制を整えている。特に産婦人科との関連についてはHigh Risk Pregnancyからの分娩には小児科医が立ち合い、分娩直後からの新生児救急医療を行っている。NMCSからの情報内容においても、このシステムによって緊急処置を行っている。

NICUの増設に伴い、またNMCSの一環として当病院が果たす役割も大きくなってきている。小児外科、小児眼科など、総合病院の特性を生かした組織づくりにより、新生児医療はさらに向上するものと考えている。

## まとめ

前記7病院の参加によって発足したNMCSも協力病院も加え、現在では12病院により構成されるに至っている。二次入院受け入れのための情報センターは、発足以来小児保健センターにあり、53年11月にはNMCS運営委員会が設置され、大阪における新生児相互援助システムNMCSの基礎が確立された。NMCSで取り扱った新生児は、大阪市53%、大阪府下47%と全大阪の新生児



表1 ブロック別情報

(52.9~53.3)

ブロック分類	一次入院		二次入院		総数	%
	計	%	計	%		
1 豊中市, 池田市, 吹田市, 箕面市, 能勢市, 東能勢村	69	10.2	21	12.0	90	10.5
2 高槻市, 茨木市, 摂津市, 島本町	19	2.8	4	2.3	23	2.7
3 守口市, 寝屋川市, 門真市, 枚方市, 大東市, 四条畷市, 交野市	61	9.0	9	5.2	70	8.2
4 東大阪市, 八尾市, 柏原市	108	15.9	25	14.4	133	15.6
5 富田林市, 河内長野市, 松原市, 羽曳野市, 藤井寺市, 太子町, 河南町, 狭山町, 美原町, 千早赤坂村	36	5.3	8	4.6	44	5.2
6 堺市	12	1.8	9	5.2	21	2.5
7 岸和田市, 貝塚市, 泉大津市, 泉佐野市, 和泉市, 高石市, 泉南町, 忠岡町, 熊取町, 田尻町, 岬町, 阪南町	17	2.5	6	3.4	23	2.7
8 北区, 都島区, 大淀区, 淀川区, 東淀川区, 旭区	72	10.6	14	8.0	86	10.1
9 福島区, 此花区, 西区, 港区, 大正区, 西淀川区	66	9.7	8	4.6	74	8.7
10 東区, 天王寺区, 南区, 浪速区, 東成区, 生野区, 城東区, 鶴見区	133	19.6	25	14.4	158	18.5
11 阿倍野区, 住吉区, 住之江区, 東住吉区, 平野区, 西成区	85	12.6	45	25.9	130	15.3
他府県	7	/	0	/	7	/
不明	45	/	3	/	43	/
計	730	100	177	100	907	100

表2 月間一次・二次入院例数 (S52.9~S53.8)

月間例数	S52.				S53.								TOTAL
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	
一次入院	34	62	56	55	41	52	77	76	65	72	71	69	730
二次入院	8	8	12	25	22	6	11	23	18	13	14	17	177
TOTAL	42	70	68	80	63	58	88	99	83	85	85	86	907

表3 症例の内容

(S.52.9~S.53.8)

	第一次入院	第二次入院	TOTAL	%
未熟児	221	65	286	31.5
呼吸器系	128	32	160	17.7
血液・循環器系	40	12	52	5.7
腎泌尿生殖系	2	1	3	0.3
消化器系	41	7	48	5.3
中枢神経系	35	9	44	4.9
内分泌代謝系	8	1	9	1.0
感染症	20	6	26	2.9
外表奇形	37	4	41	4.5
内臓奇形 (内臓外科系)	39	13	52	5.7
黄疸	121	22	143	15.8
その他	38	5	43	4.7
TOTAL	730	177	907	100

表4 死亡例分布

(52.9.-53.8.)

	一次入院	二次入院	計	%
総例数	730	177	907	/
未熟児	11 極小未熟児 7. + IRDS 2. + 肺出血 2.	6 + RDS 3. + 肺出血 1. + Meningitis+PDA 1. + Necrotizing Enteritis 1.	17	29.3
呼吸器系	8 肺出血 1. RDS 6. 先天性肺炎 1.	3 RDS 3.	11	19.0
血液・ 循環器系	6 心奇形 4. 心奇形+鎖肛 1. メレナ 1.	3 心奇形 1. 心奇形+ダウン症 1. DIC、CHD? 1.	9	15.5
中枢神経系	5 けいれん 1. 頭蓋内出血 2. 重症仮死 2.	1 頭蓋内出血 1.	6	10.3
感染症	1 Meconium Peritonitis 1.	2 敗血症 1. + Hirsch+Volvulus 1.	3	5.2
外表奇形	4 二重体 1. D-Trisomy 2. 外表奇形+心奇形 1.	0	4	6.9
内臓奇形 (外科系)	4 TEF 1. TEF+VSD 1. E-トリソミー+TEF+VSD 1. ダウン症+胃穿孔 1.	0	4	6.9
OTHERS	3 Death on Arrival 1. Necrotizing Enteritis 1. 不明 1.	1 不明 1.	4	6.9
TOTAL	42	16	58	100

表 5 月間一次・二次入院例数

月	一 次 入 院	二 次 入 院	T O T A L
1	5	0	5
2	13	1	14
3	15	3	18
4	10	1	11
5	5	0	5
6	9	1	10
7	10	4	14
8	14	0	14
9	6	3	9
10	10	1	11
11	11	4	15
12	6	5	11
	114	23	137

(1978. 1 ~ 12)

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

はじめに

昭和 52 年度新生児救急医療システムに関する研究において、「大阪府下における NICU の地域化について」具体的な方策につき考案し報告した。今回は大阪府における新生児診療相互援助システム(NMCS)参加病院の一つとして、当院小児科の果してきた活動状況を報告するとともに、NMCS が取扱った新生児医療の成果と貢献度について併せて紹介する。